

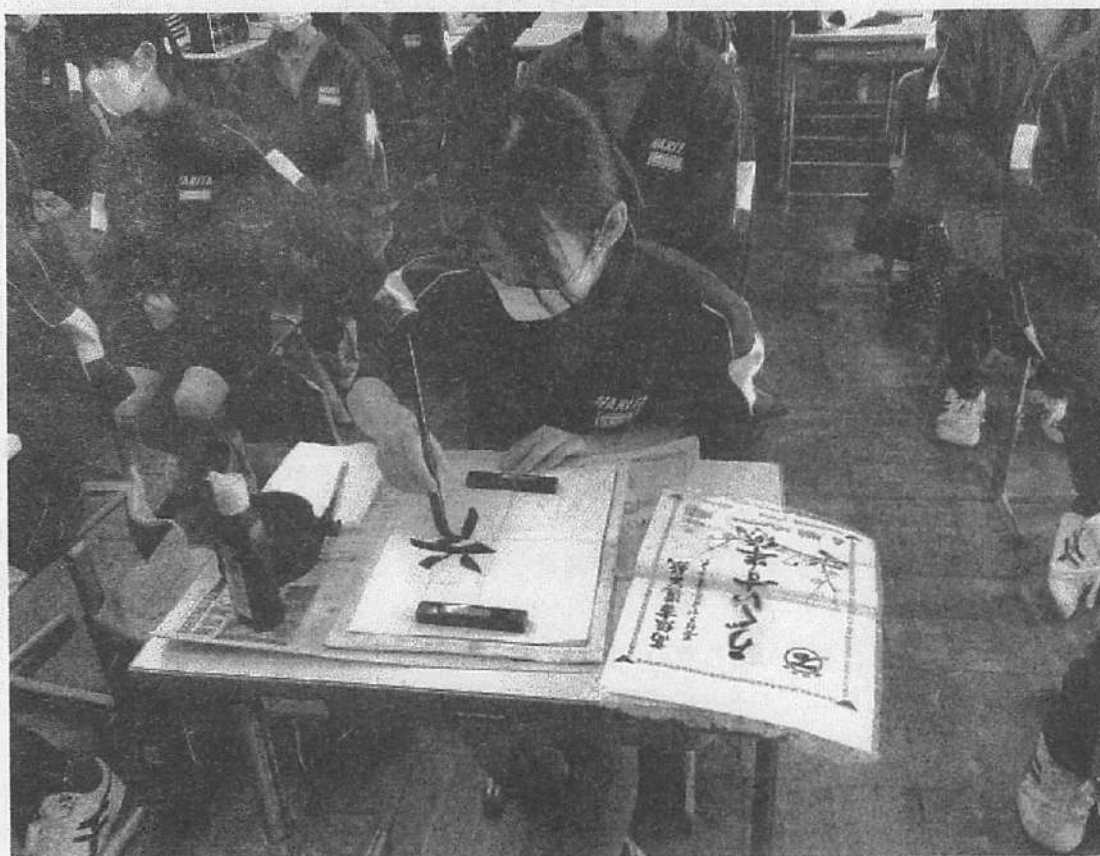
令和7年度 印旛地区教育研究集会 国語科書写分科会

研究主題

生きる力を育む書写教育のありかた
—基礎・基本の習得と日常の書写力の向上をめざして—

本校研究主題

学びの必然性を意識した書写教育を通して



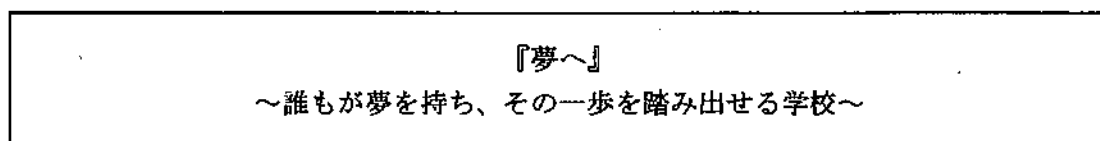
令和7年8月22日

成田市立成田中学校

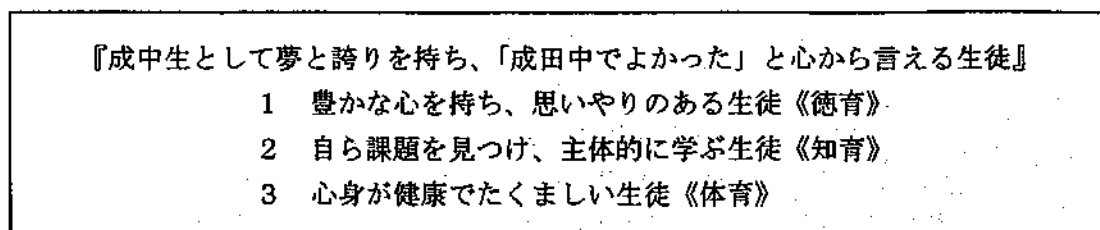
山口かほり

1. 研究の全体構造と研究主題

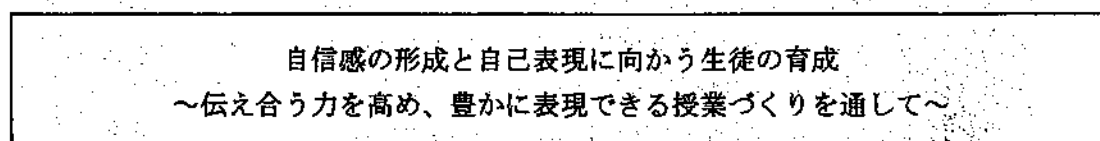
学校教育目標



目指す生徒像



学校研究主題（全体）



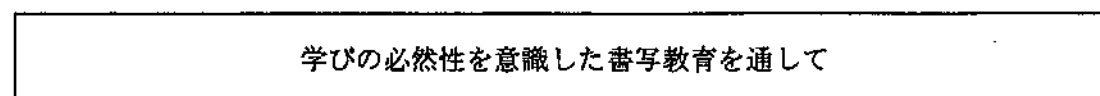
学校・生徒の実態

本校の学区は、平成21年度より豊住中学校と統合し、新たに豊住地区を加え、旧成田町の大部分と中郷地区全域と八生地区、遠山地区の一部よりなっている。旧成田町は成田山新勝寺の門前町として発展してきた町である。参道は飲食店、土産店、旅館などが並び観光都市的な色彩を強め発展してきた。しかし、近年の開発により土屋、郷部、美郷台、御所の内などは住宅の造成が進み、生徒数も急増し全校生徒の60%を占めている。豊住、中郷、八生、遠山の各地区は農業が盛んであり、田園風景がひろがっている。

本学区は成田空港が間近に控え、その姿はめざましい変貌を遂げている。大型ショッピングセンターや飲食店等が進出し、生徒の健全な成長を図る上で、配慮を要する面も生じている。

多くの生徒たちは、素直で落ち着いて授業に臨んでいる。様々な場面や授業の中でタブレットを活用しているが、ノートやプリントなど手書きの場面の割合も大きい。個人的に書道を習っている生徒も多少はいるが、マスの中に文字が収めることが困難であったり、じっくり手本を見て書くことが不得手な生徒の割合が年々増えているように感じる。授業の板書を写す様子を見ても個人差が大きいように感じられる。書写の授業ではある程度丁寧に書けても、漢字の小テストなどでは『とめ』や『はね』などが曖昧である。

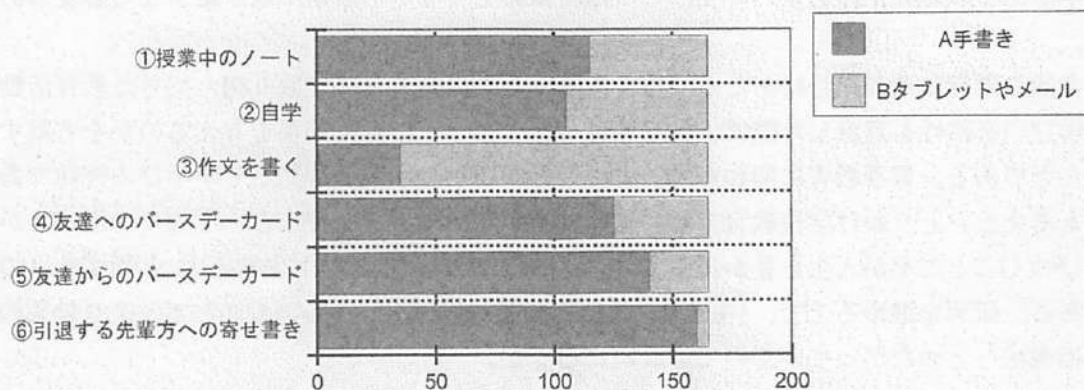
研究主題



アンケート結果（令和6年9月 1学年165名実施）

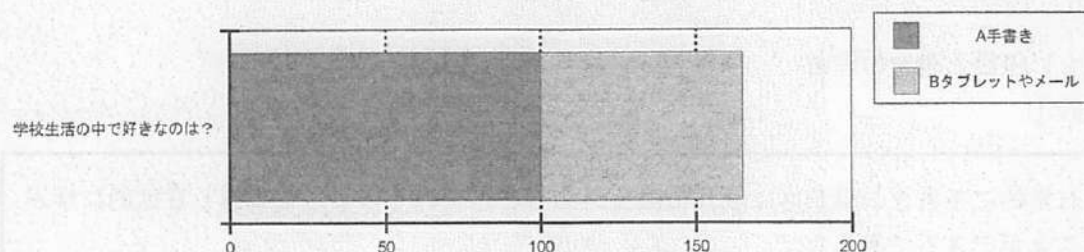
1. 次の場合、A 手書き・B タブレットやメールのどちらがいいですか。

	A 手書き	B タブレットやメール
①授業中のノート	115	50
②自学	105	60
③作文を書く	35	130
④友達へのバースデーカード	125	40
⑤友達からのバースデーカード	140	25
⑥引退する先輩方への寄せ書き	160	5



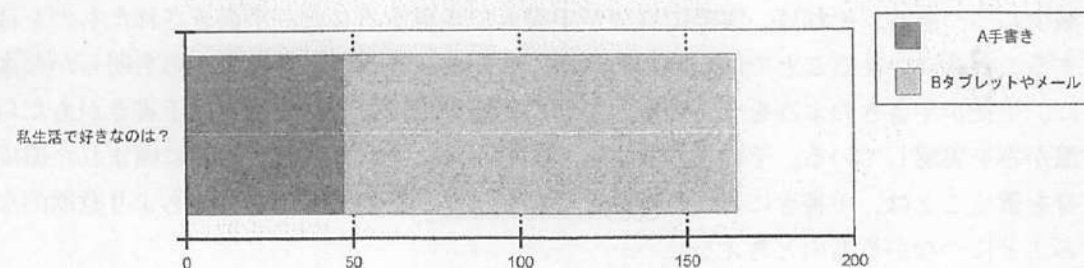
2. 学校生活の中で、A 手書き・B タブレットやメールのどちらが好きですか。

A 手書き（100名）・B タブレットやメール（65名）



3. 私生活の中で、A 手書き・B タブレットやメールのどちらが好きですか。

A 手書き（47名）・B タブレットやメール（118名）



Ⅱ. 研究主題について

(1) 研究主題設定の理由

アンケートを実施する前の予想では、各項目でタブレットの割合がもっと高いものになると考えていた。実際には、手書きならではのよさ（思いを伝えられる、気持ちを込めて書くことで記憶に残るなど）を生徒それぞれが味わっていることがわかった。タブレットやメールのようにすぐに伝えられる利便性も重要であると考えているようであるが、それと同じくらい手書きならではの温かさを実感している。そういった生徒それぞれの感性をより伸ばしていけるような手立てや展開を考えていきたいと思った。その一方で、書写に限らず何となく学んでいる生徒の実態を踏まえてこの研究主題を設定した。また、基礎・基本があやふやな生徒も多いので、その都度確認をしながら活動に取り組ませる必要もある。

今回の研究に取り組むにあたって重きを置いたのは、これまで取り組んできた教育活動が学びの必然性を意識した際に、書写教育へどのような影響や効果を与えるのかを考察することである。書写教育に関わらず、実生活と課題がつながる瞬間こそが学びの神髄であると考え。とりわけ学校教育では、生徒自身が自分の生活や将来と、学校での学びとが結びつくことこそが人生を豊かにしていく。これは教育が目指す「生きる力」と通ずるものがある。研究を進める上で、「生きる力」の三本柱とも関連付けていくことで、より効果的な指導法へとつながっていくのではないだろうか。

変化の大きいこの時代であっても、全ての子どもたちは本当の意味での学びを通じて未来に向けて成長しようとする潜在的な能力をもっている。その能力を引き出すための一つのきっかけとして、この研究を位置づけた。ただ単に、文字を丁寧に書ける、美しく表現できることにとどまらず、生徒一人一人の心や生き方に迫れるような実践を目指した。

(2) 仮設と設定の理由

仮設①

日常的に手書きの温かさに触れる機会があることで、そのよさを実感し意欲的に学ぶことができるであろう。

ICTの普及により、現代社会は効率化や生産性の向上が見込まれている。データの有効活用やコミュニケーションのツールとして、授業内や私生活など生徒たちにとってもICTは非常に身近な存在であるといえる。その一方で、生徒たちが手書きのものに触れる機会は減少しつつある。それは、実際に自分が手書きで表現すること、手書きされたものを目にすること共にいえることではないだろうか。しかし、アンケート結果からも明らかなように、生徒が手書きのよさを全く理解していないわけではない。根底では手書きがもたらす温かみを実感している。そのような生徒の実態を踏まえ、手書きのものに囲まれた環境に身を置くことは、手書きに対する感動を呼び起こし、その学習においてもより意欲的な学ぶことにつながるものと考え。

中央教育審議会答申においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに

に働かせながら、(中略)学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりその強みを発揮できるようにしていくことが必要であるとされた。

(学習指導要領・第1章総説(2)改定の基本方針より)

仮設②

書写の時間に限らず、他教科や学校行事、身近な題材と関連付けることで、学びの必然性を深められるであろう。

書写の学習を他教科や学校行事と関連付ける、つまり横断的な学習は、生徒の「どうして学ぶのか」「何のための活動なのか」という学びの必然性につながる。これは教育活動全体が目指す「生きる力」にもつながる。変化の大きいこの時代に、生徒一人一人がよりよく生きるために、学びのその先にあるものをイメージさせることには大きな意味があるのでないだろうか。

漢字の行書の基本的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。

学習指導要領 国語編 第3章 各学年の内容

(第1節 第1学年の内容)

1 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項エ(イ)より)

仮設③

相手意識や目的を知ることで、実生活での活用を主体的にしていけることができるであろう。

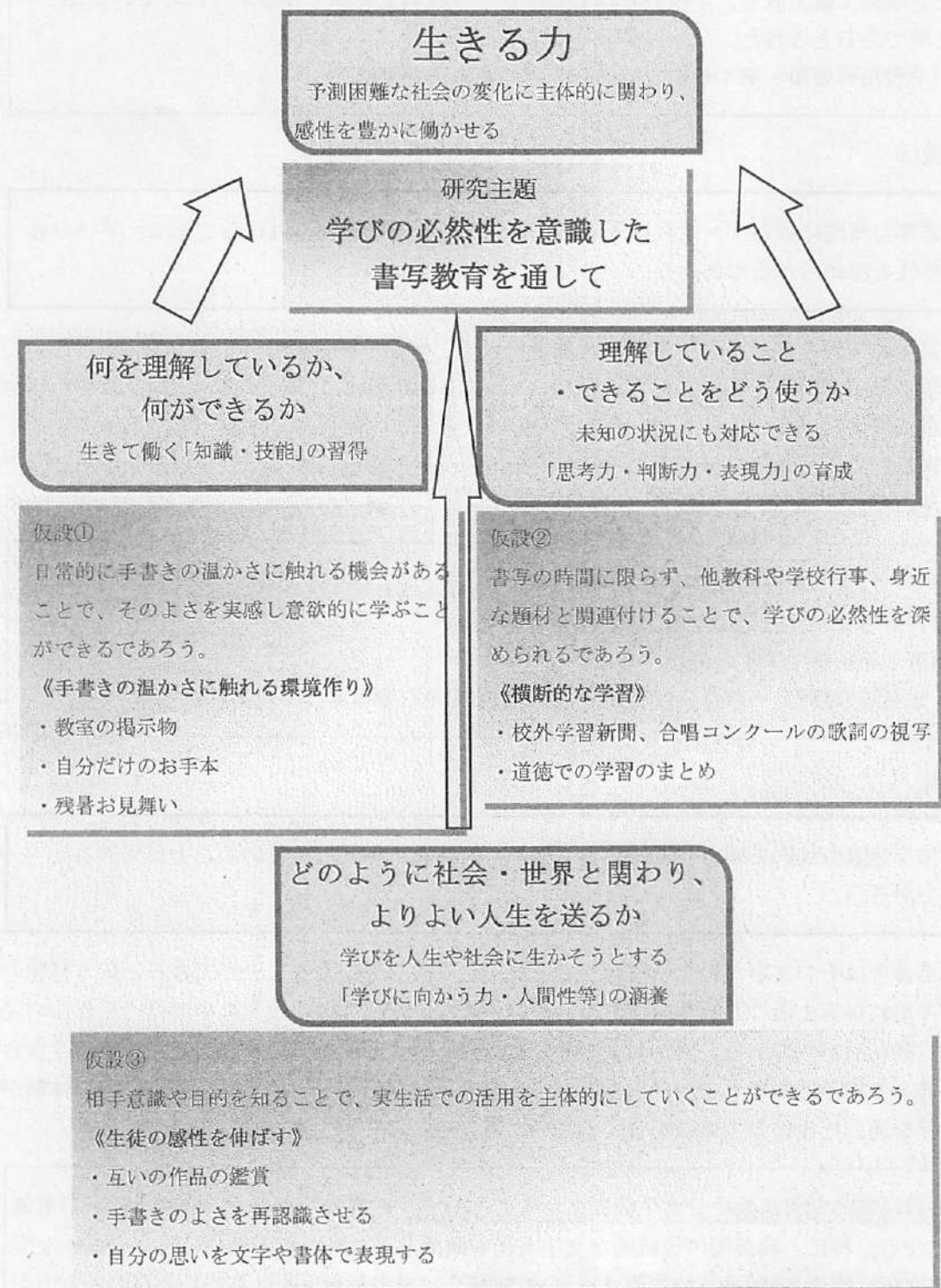
手書きはその文字としての情報だけでなく、気持ちも伝えることができるという経験の積み重ねが実生活での活用を促していくのではないだろうか。授業の中ではつい作品の完成に終始しがちである。しかし、お互いに鑑賞し合う時間を確保することにより、手書きを通して相手の気持ちを受け取ること、自分の思いが伝わるというかけがえのない体験が書写を通した生徒の主体性を育てるものと考えられる。

各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することが重要となる。特に、我が国の伝統的な文字文化を継承し、これからの社会に役立つ様々な文字文化に関する「知識及び技能」について理解し、文字を効果的に書くことができる力を育成することが大切である。

(学習指導要領 国語編 第2章 国語科の目標及び内容 第2節 国語科の内容)

2 知識及び技能の内容 (3) 我が国の言語文化に関する事項より)

～「生きる力」の三本柱と関連付けた研究のイメージ～



Ⅲ. 研究の実践

《仮設①における具体的手立て》

実践

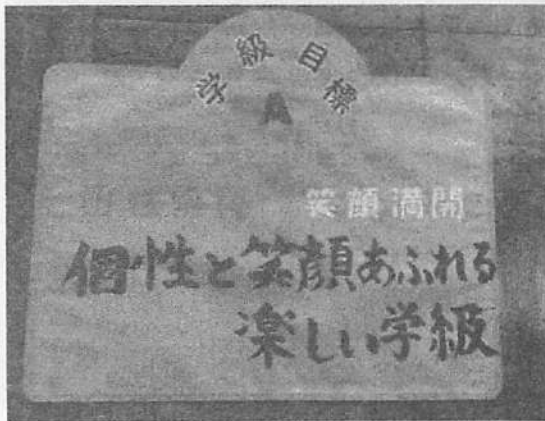
A 教室環境…学級目標、合唱コンクール歌詞、体育祭などの行事に関する掲示物を手書きのものにした。

B 名前の手本…自身の名前を心を込めて書いてほしいという願いを込めて手書きの手本とした。

C 夏休み中の便り

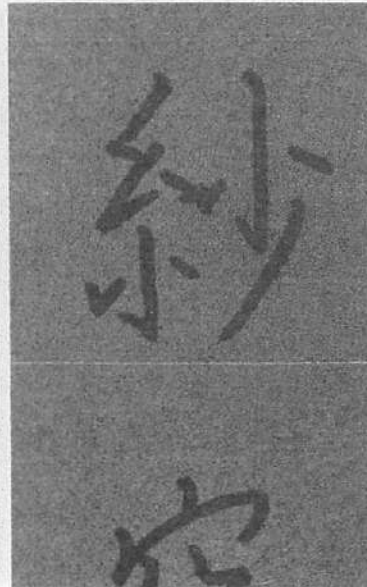
手立て

A パソコンでもできる作業ではあるが、行事など教師も一丸となって頑張るという思いを込めてこれまで手書き（毛筆）で行ってきた。学級目標は代表の生徒に毛筆で書いてもらっている。…資料①参照



B 名前の手本…行書で自分の名前を書くことが初めての生徒がほとんどなので、手本を渡している。これもパソコンでできることではあるが、自分だけのお手本という特別感の中で学習させることもねらいとしている。また、その生徒の能力に応じて、行書を書き分けた手本としている。

《例》



《左の生徒》

普段から文字を書くのが丁寧で、習字を習っている。（すでに行書で書ける。）

《右の生徒》

丁寧に文字を書く生徒だが、はねやはらいへの意識は低い。（行書には不慣れ。）

C これまで単なる挨拶として送っていた暑中見舞いだが、受け手である生徒はどのように感じているのか、今回感想を聞いた。



- ・ 久々に手書きの手紙をもらって嬉しかった。
- ・ 自分に郵便物が来るのが新鮮だった。
- ・ 先生の文字を見て、もうすぐ学校が始まることを実感した。
- ・ 宛名も手書きだったのでただ事ではないと思った。
- ・ 読んでいたら楽しい気持ちになった。

生徒は手書きという部分に重きを置いて夏の便りを味わっていることがわかった。「手書きのものをもらえると心が動かされる」という経験ができたことがうかがえた。こうした生徒の繊細な感覚も授業を展開する上で大切に、全体で共有していきたい。

《仮設②における具体的手立て》

実践

A 校外学習新聞作り・合唱コンクール自由曲の視写(書写と総合・学校行事の横断的学習)

B 道徳の活動のまとめ(書写と道徳・学校行事の横断的学習)

C 学校名を行書で表現(身近な題材への取り組み)

手立て

A 校外学習新聞(個人)もタブレットなどのできる活動であるが、手書きの新聞とした。

今まではレイアウトの見本のみであったが、文字の大きさや書く道具によっての印象の違いを実感させるために教師による実際の新聞を提示した。合唱コンクール自由曲の視写の活動では、曲への思いを込められるように硬筆の課題として取り入れた。歌詞の部分だけの手本にすると、それ以外の部分(歌詞の好きな部分やどのような気持ちで歌いたいか)の文字がおろそかになるので、手本を付け加えた。…資料②参照

B 卒業式の全校合唱で歌う『群青』についての道徳を展開した。終末ではどのような思いを込めて歌いたいかをカードに記入させ、手書きの歌詞の周りに掲示した。先輩も目にするものであることを事前に伝え、ペン書きに挑戦させた。…資料②参照

C 普段目にすることの多い学校名を行書(硬筆)で表現させた。身近な題材で、抵抗なく行書の特徴を味わわせることを目的とした。…資料②参照

→課題

- ・ 書き順を確認すると「成」「田」の書き順が違う生徒が各クラス10人弱いた。
- ・ 「市」を正しく書けない生徒は学年に3人ほどいた。

○なぜ書き順は大切なのかという学びの必然性について、大きな課題が見られたため、以下の授業実践を加えた。

【学びの必然性をより深めていくための授業実践】

単元名 リレー書道に挑戦しよう

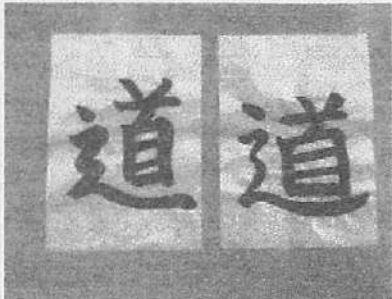
本時の指導

①目標 リレー書道を通して、どうして書き順が大切なのかを考えることができる。

【知識及び技能】

②展開

時配	学習内容と学習活動	・指導・支援 ○評価（観点）【方法】	資料
5	1. 前時の学習を振り返る。 ・「成」「田」の書き順の確認をする。	・一斉に空書きを行い確認する。 ・一画目の確認を入念に行う。	・プリント
2	2. 本時のめあてを知る。	・本時の学習の見通しをもたせる。	
	リレー書道に挑戦しよう。		
8	3. リレー書道について理解する。 ・課題となる文字を一人一画ずつ書いて、一つの文字を完成させる。 ・筆の持ち方、運び、書く姿勢に気をつける。 ・楷書で書く。 ・書くときはしゃべらない。	・筆の持ち方、運び、姿勢を確認する。 ・最前列の生徒は毛筆の準備、二列目以降は椅子のみにする。	
20	4. リレー書道を実践する。 課題①「花」 課題②「道」 	・一画目を書き終えたら静かに待ち、指示が出たら座席を移動するように促す。 ・課題①と課題②の間に、作戦タイムを取り入れる。 ・完成した文字を分析して、課題②に活かせるようにする。	
10	5. リレー書道で大切なことを確	・学習を通して気がついたことを	・TV

	認する。 【生徒の反応】 ・一人目（一画目）がどこに、どのような大きさで書くのがポイントになると思った。 ・書き順が違くとバランスがとれなかった。 ・次の人（次の画）を考えて書かないといけないと感じた。 ・しんのような文字の一画目は、思ってたより真ん中に堂々と書いた方がいいと思った。	ロイロノートで提出させ、全体で共有する。 ○正しい書き順が字形を整えることにつながることに気がつくことができる。 （知識及び技能）【ロイロノート】 	・タブレット
5	6. 次時の学習について予告する。	・書き順を意識して、書き初めの課題に取り組むことを伝える。	・振り返りカード

《仮設③における具体的手立て》

実践

A 校外学習新聞の鑑賞会及び学級賞決め

B 新年の目標を漢字一文字で表現

C カラーマスを用いた取り組み

手立て

A クラスの仲間に見てもらうことを意識して作成させた。鉛筆でもペン書きでもよいとしたが、ペン書きに挑戦する生徒もいた。完成したものを鑑賞し、そのよさを認め合うことで手書きに対する意欲が高められるようにした。…資料②参照

B 色紙に毛筆で表現させた。文字や書体は自由とした。希望者には手本を書いた。半紙以外の道具を目の前にした緊張感と自分の思いをどのように毛筆で表現していくのかを考えさせた。…資料③参照



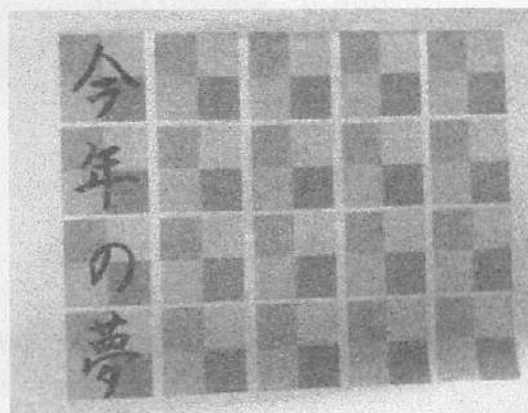
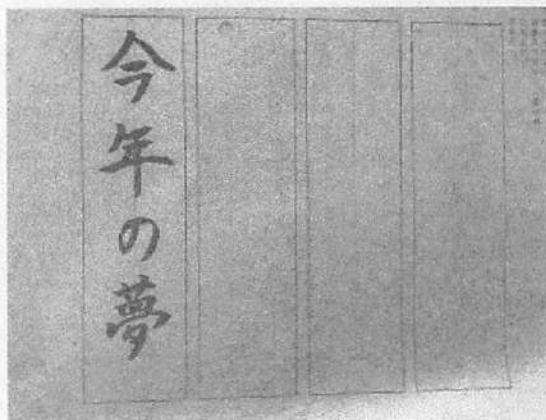
《楷書を選択した生徒》

- ・意志の強さを伝えたいから。
- ・はっきりした印象に仕上げたい。

《行書を選択した生徒》

- ・スピード感、勢いを表現したい。
- ・次へのつながりが自分の気持ちと似ているから。

C 書き初めの課題を、罫線やマスがあっても文字のバランスや大きさをうまく表現できない生徒が見受けられたので、全体でカラーマスをを用いて同じ課題に取り組んだ。前回の自分の作品と比較して、その成長や達成感が味わえるように、ロイロノートによる撮影と提出をさせた。・・・資料③参照

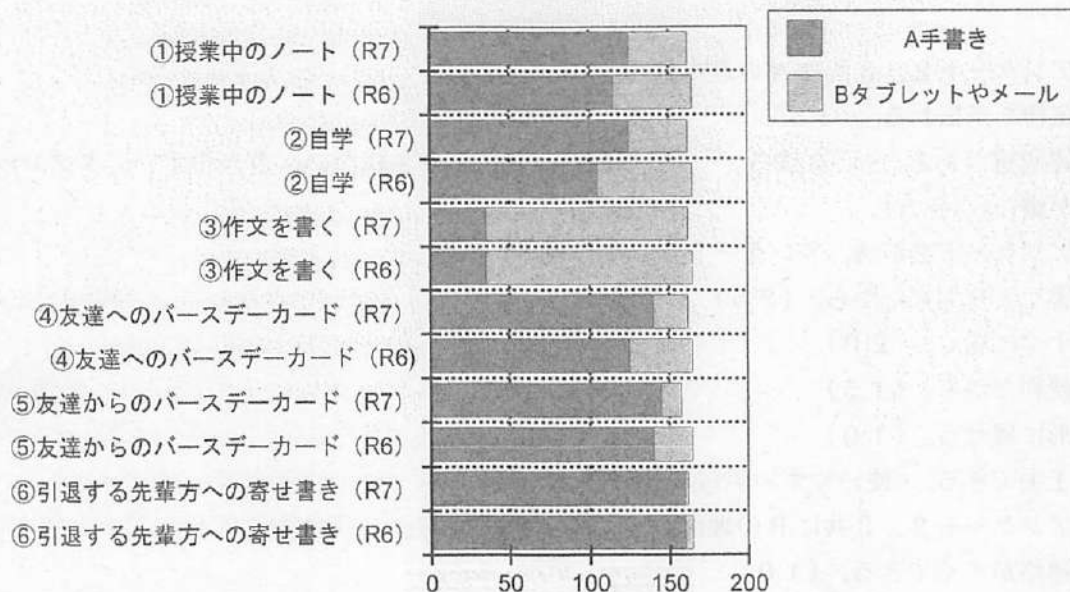


IV. 成果と課題

アンケート結果（令和7年7月 2学年162名）

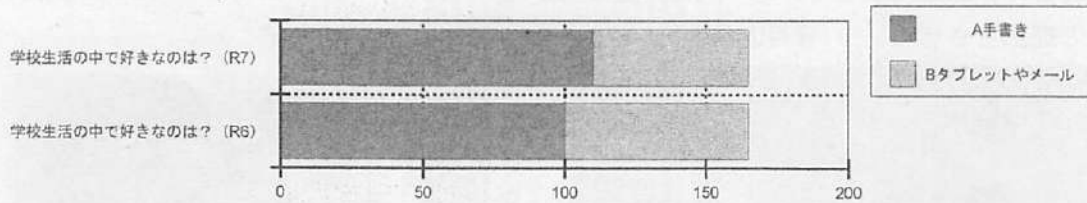
1. 次の場合、A 手書き・B タブレットやメールのどちらがいいですか。

	A 手書き	B タブレットやメール
①授業中のノート	125	37
②自学	125	37
③作文を書く	35	127
④友達へのバースデーカード	140	22
⑤友達からのバースデーカード	145	17
⑥引退する先輩方への寄せ書き	160	2



2. 学校生活の中で、A 手書き・B タブレットやメールのどちらが好きですか。

A 手書き (110名)・B タブレットやメール (55名)



【A の理由】(複数回答)

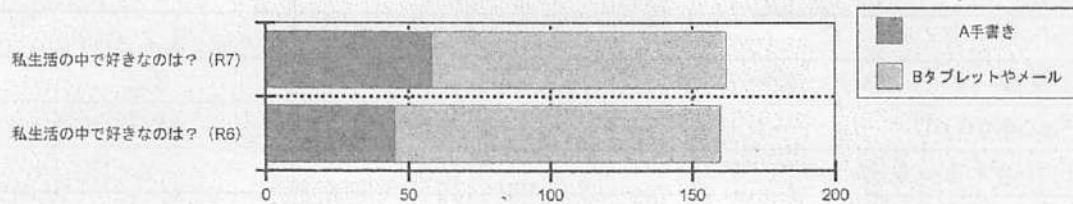
- ・達成感が得られる。(30) ※割合増加
- ・文字を書くことが好き。気持ちが伝わる。(各10) ※割合増加
- ・書いた方が覚えられる。・手書きの方が慣れている。・タブレットが嫌い。(各10)
- ・データーだと消えてしまう。・メモが取りやすい。・レパートリーが多い。(各4)

【B の理由】(複数回答)

- ・多く書ける。・一つにまとまっている。・打つ方が楽。(各10)
- ・打つ方が好き。・書くことが苦手。・手書きだと疲れる。書き直しができる。・活用できる。(各5)

3. 私生活の中で、A 手書き・B タブレットやメールのどちらが好きですか。

A 手書き (58名)・B タブレットやメール (104名)



【アンケート2、3共にAの理由】

- ・気持ちが伝わる。(15)
- ・達成感がある。・心に残る。・ネット環境などに左右されない。書きやすい。タブレットが嫌い。(各5)

【アンケート2がA、アンケート3がBの理由】

- ・書くよりも楽だから。(35)
- ・すぐに届く。(20)
- ・便利だから。(15)
- ・形に残せる。(10)
- ・工夫できる。・使いやすいから。(各1)

【アンケート2、3共にBの理由】

- ・連絡がすぐできる。(10)
- ・家での勉強に使いやすい。・どこでも使える。・手書きがめんどろ。・まとまっている。(各5)

【アンケート2がB、アンケート3がAの理由】

- ・覚えられる。(10)
- ・手紙など思いを伝えられる。・すぐに書ける。(各5)

アンケート項目1の①～③は主に学校生活の中で関わりの深い項目である。一人一台タブレットが貸与され、授業中でも教科を問わず日常的に使われている。しかし、ノートや自学といった項目においてはA手書きが多く割合を占める結果となった。作文に関しては、書いている中で構成を練り直したり、書き加えたりという活動がしやすいためかBタブレットが好まれた。④～⑥の項目は、生徒の私生活に関わる項目である。ここでもA手書きが多く割合を占めた。

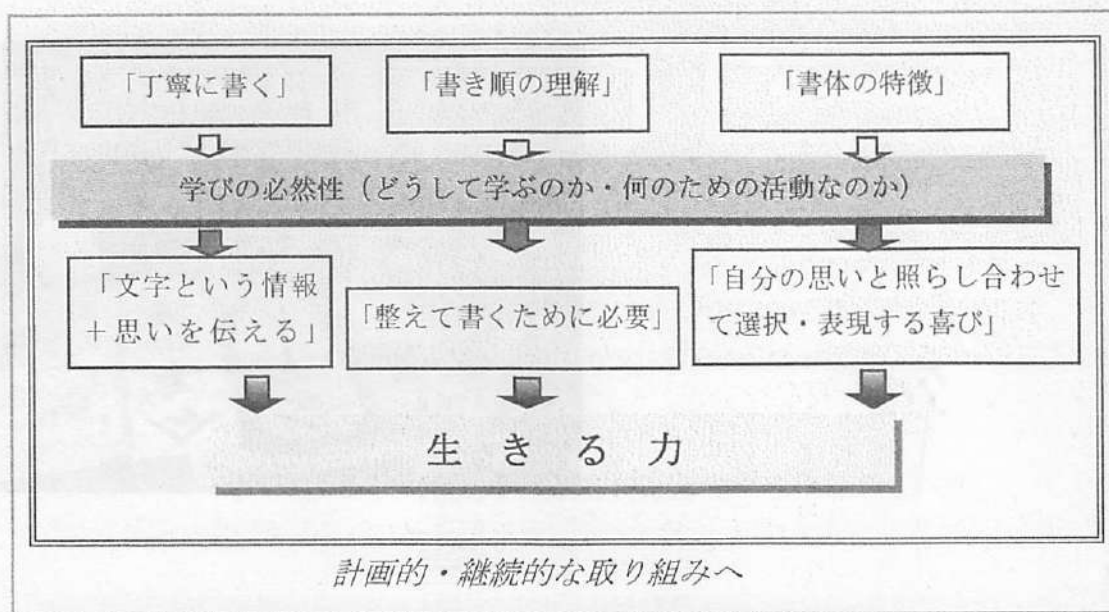
令和6年9月(1回目)と令和7年7月(2回目)に同じアンケートを実施したが、どの項目も大きな変化は見られなかった。しかし手書きを選択した理由では、1回目のアンケートでは「手書きの方が覚えられる」「慣れている」といった実用的な部分での回答が多かった。それに対して2回目のアンケートでは、「達成感が得られる」「相手にも自分にも気持ち伝わる」といった内面的な理由が増えた。手書きに対する認識の変化や深まりが感じられる結果となった。

《成果》

- ・今までは個人差が大きく見られたが、カラーマスや身近な題材を用いることで意欲的に取り組めるようになった。
- ・書き順がなぜ大切なのかを実際に味わうことで、他の文字についても書き順を質問したり、タブレットで確認したりする姿が見られた。
- ・横断的な学習を通して、相手に伝えるために気持ちを込めて文字を書くことを意識できるようになった。
- ・書体の特徴を捉えて自ら選択したり、新たに挑戦したりすることができた。

《課題》

- ・時間の経過と共に伝えるために書くという意識が薄れてしまうので、その都度声かけをしたり、今後の教育活動の中でも計画的に継続して取り組ませることが必要である。





資料編

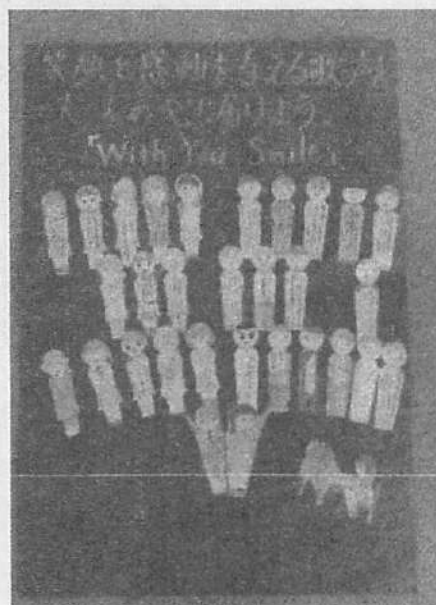
○今年の学級目標の制作



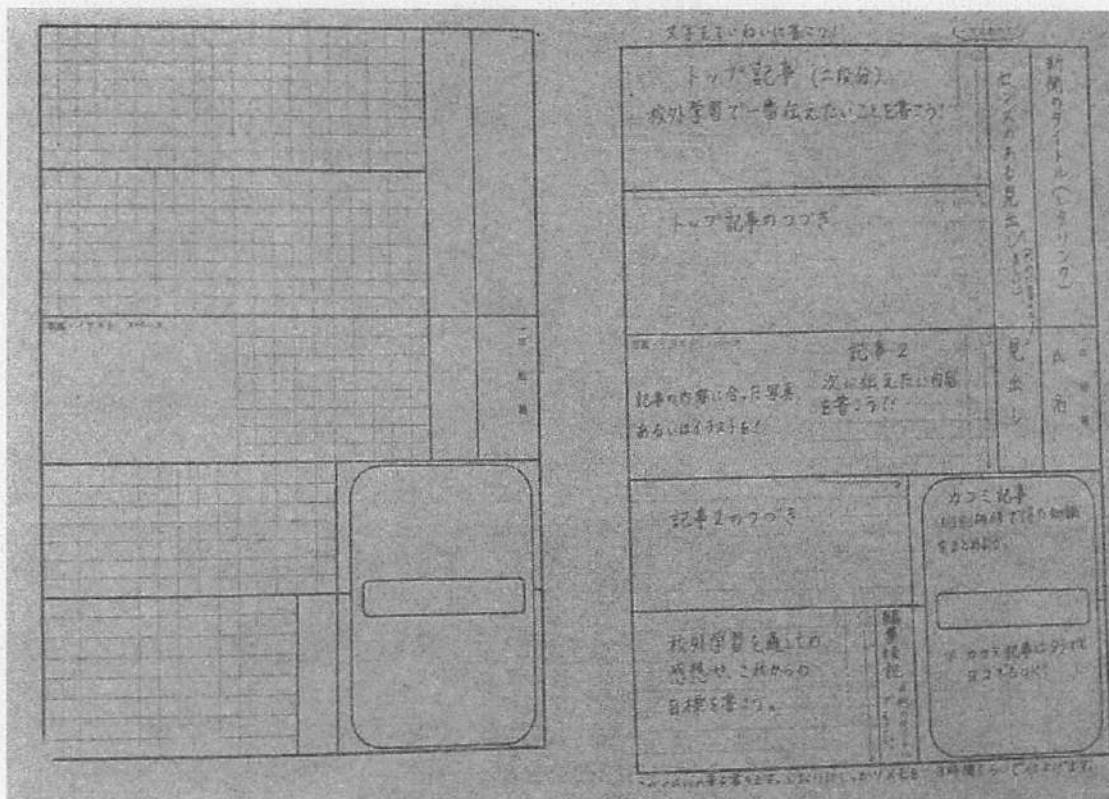
○体育祭に向けた掲示物



○合唱コンクールに向けた掲示物
(歌詞・個人目標)



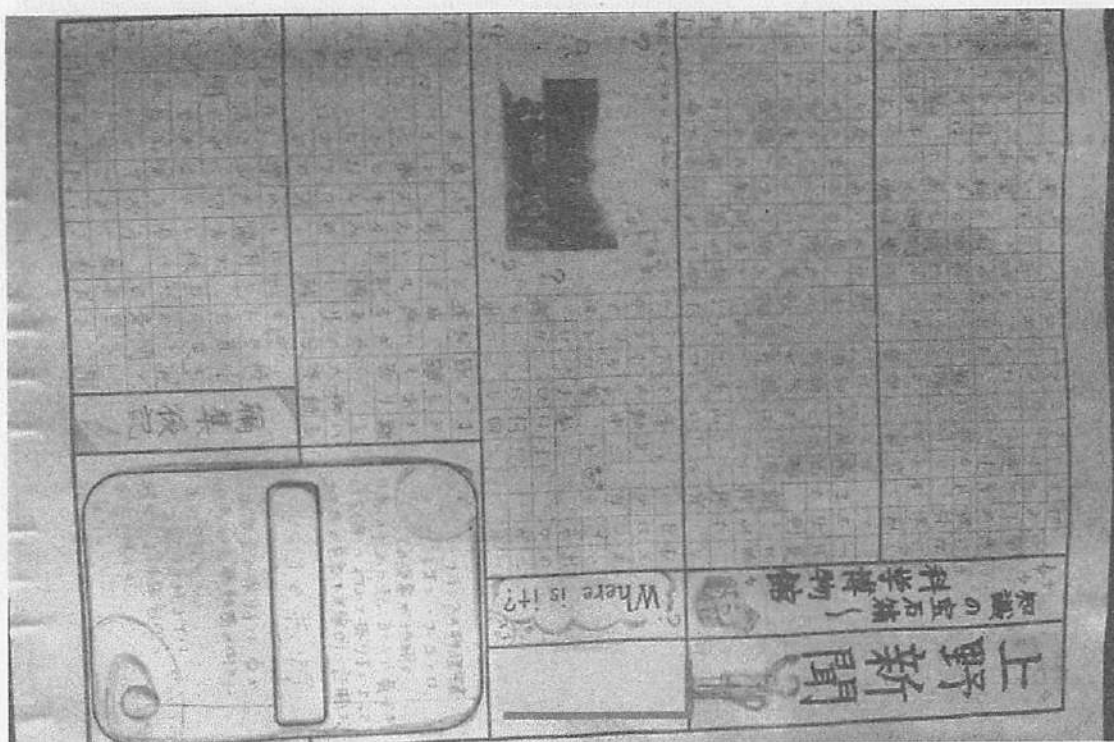
○校外学習新聞（レイアウト）



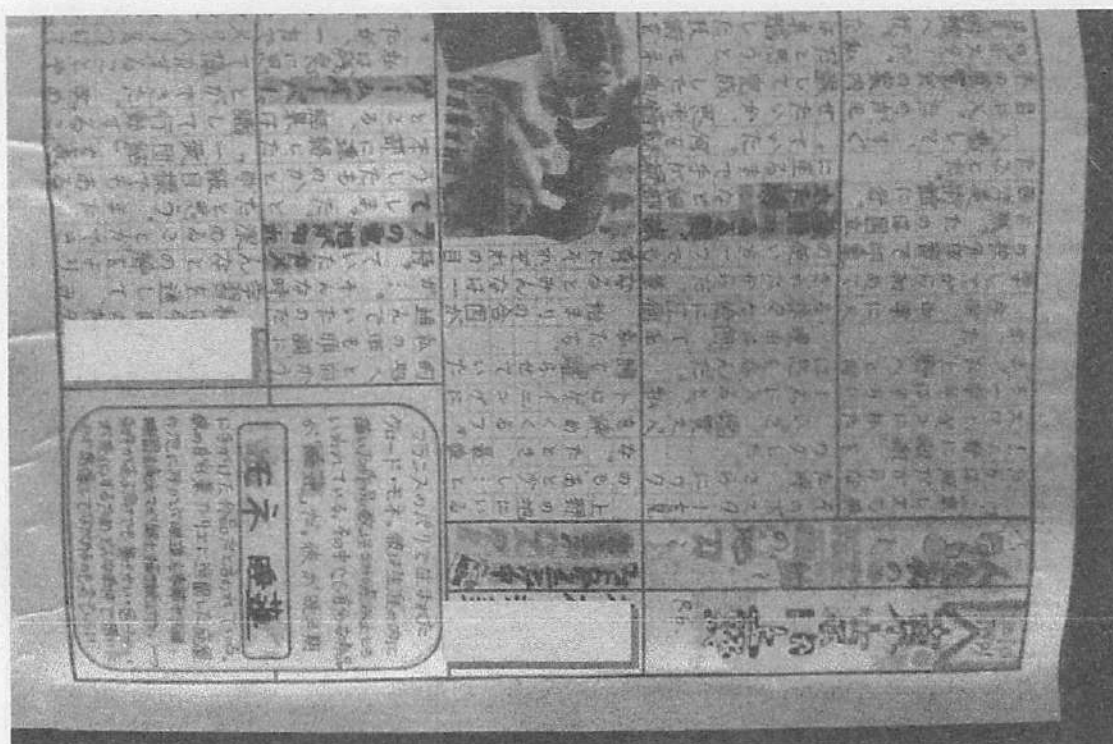
○校外學習新聞（見本・説明）



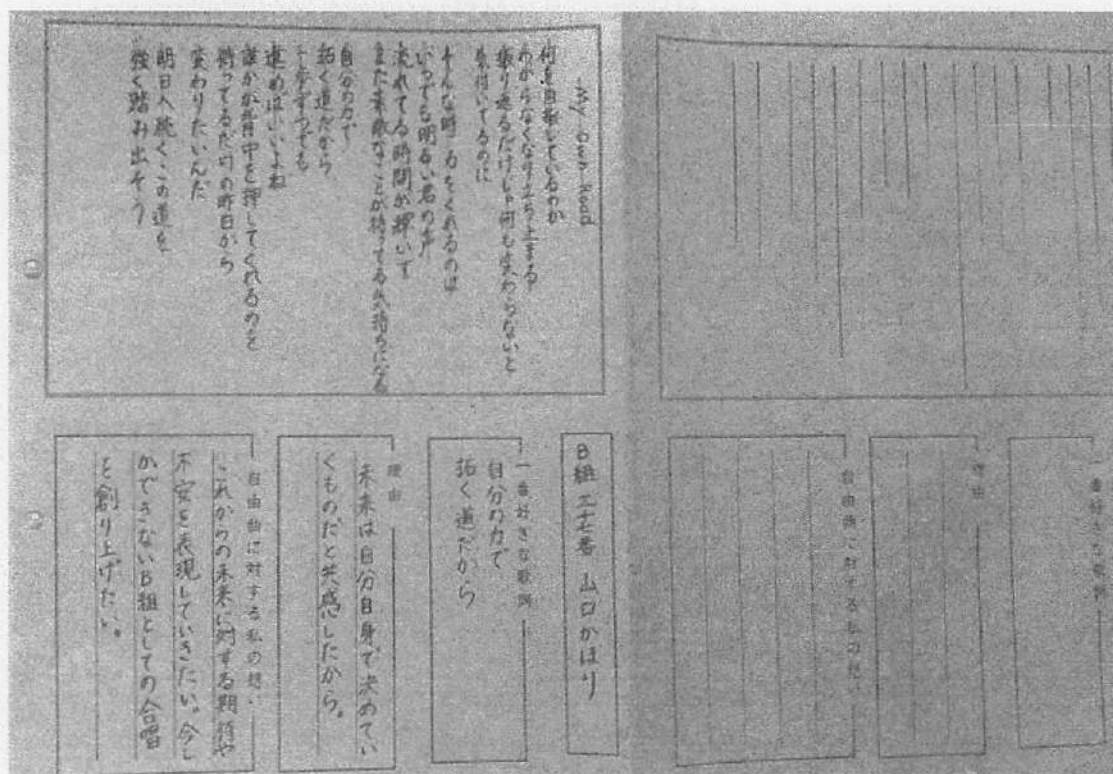
○校外学習新聞（生徒作品1 一部ペン書き）



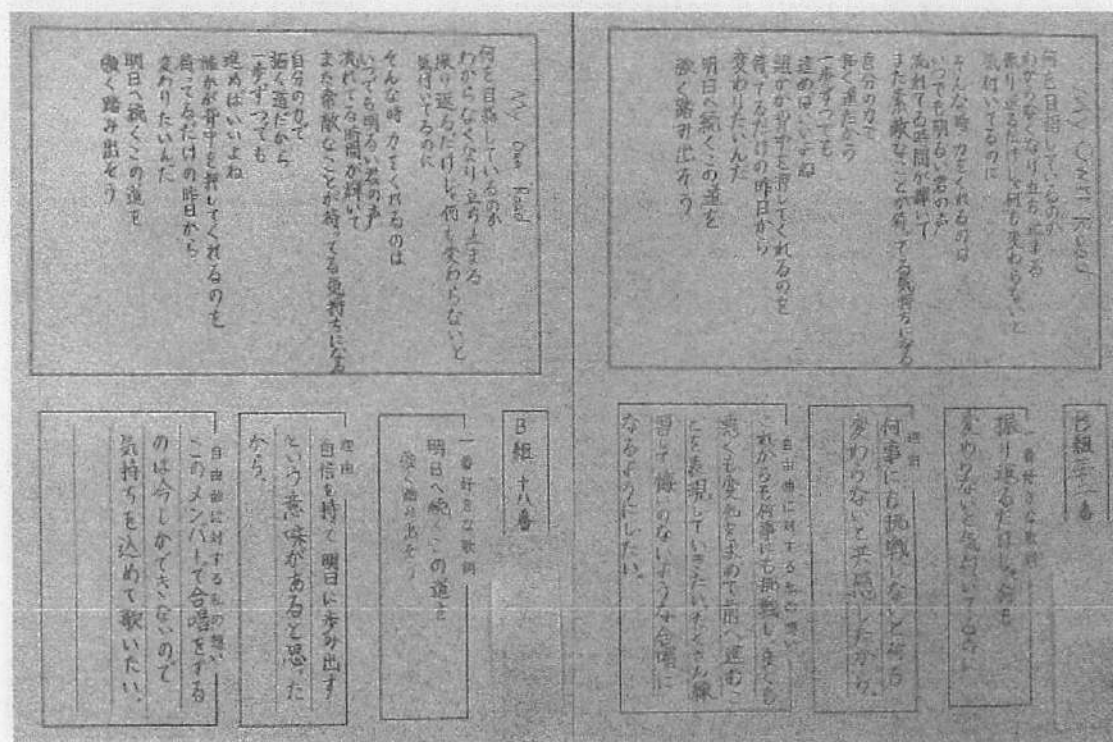
○校外学習新聞（生徒作品2 全てペン書き）



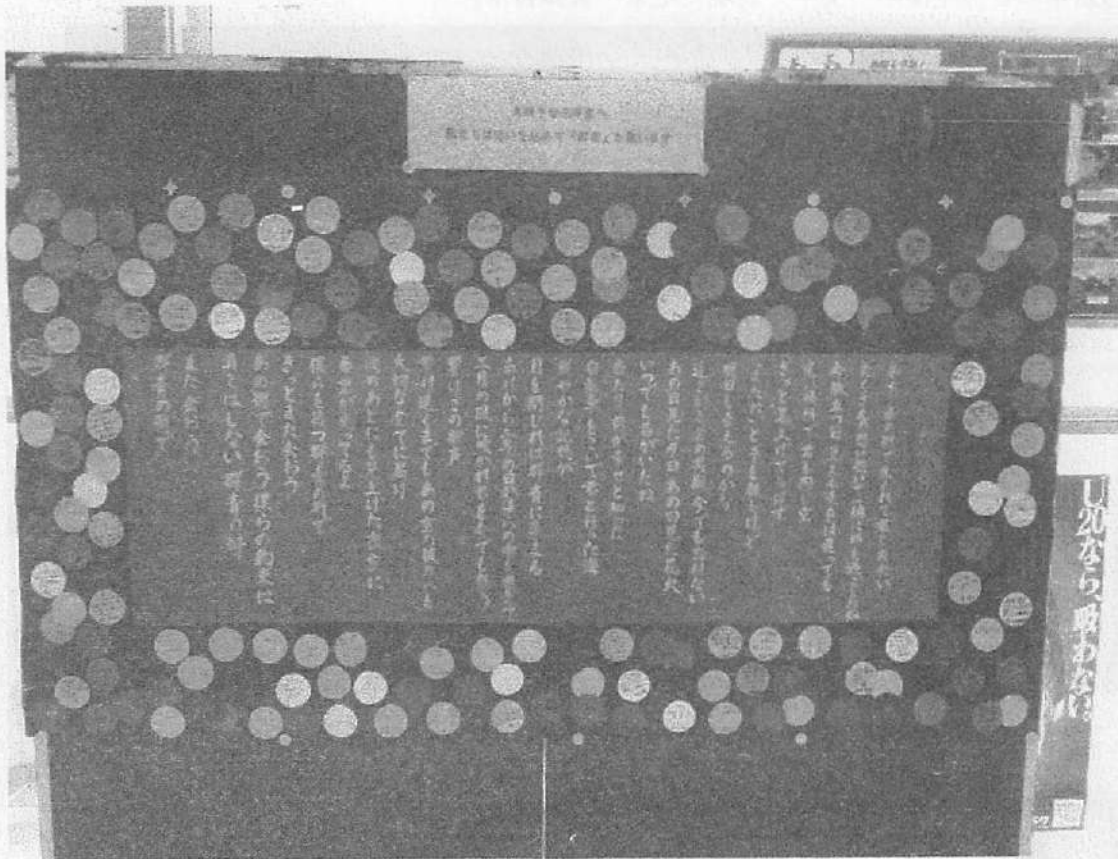
○合唱コンクール自由曲の歌詞の視写（手本・下敷き）



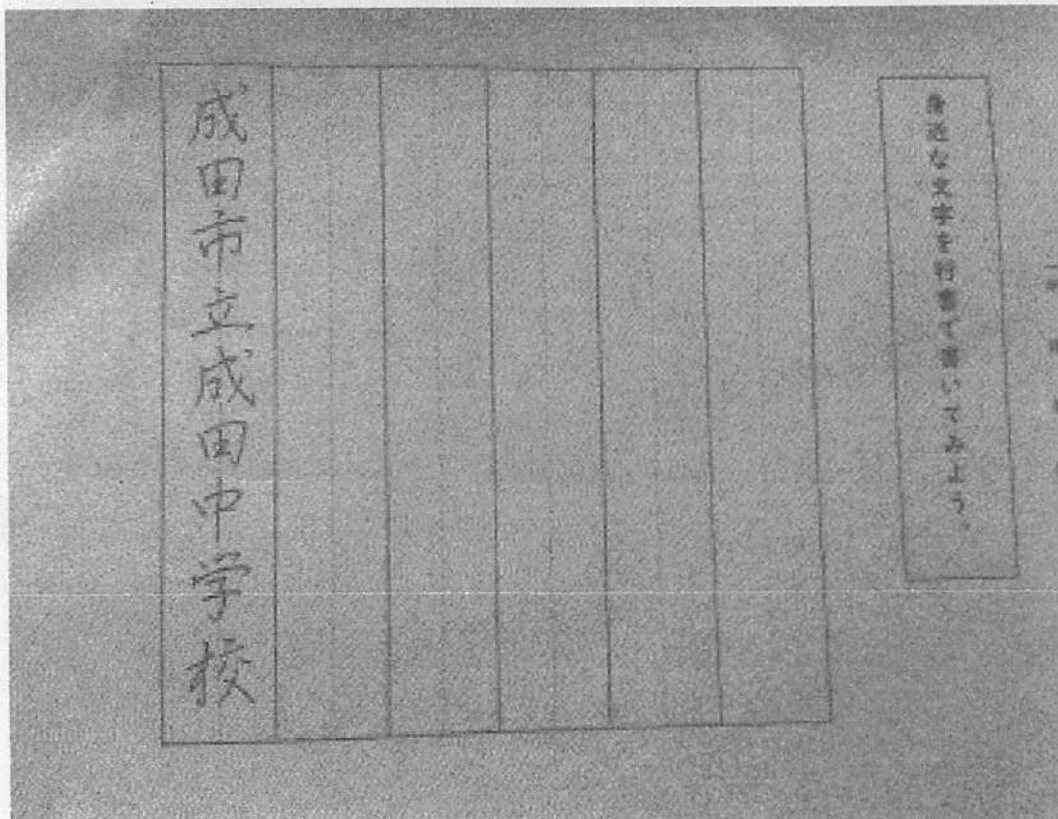
○合唱コンクール自由曲の歌詞の視写（生徒作品・硬筆・楷書）



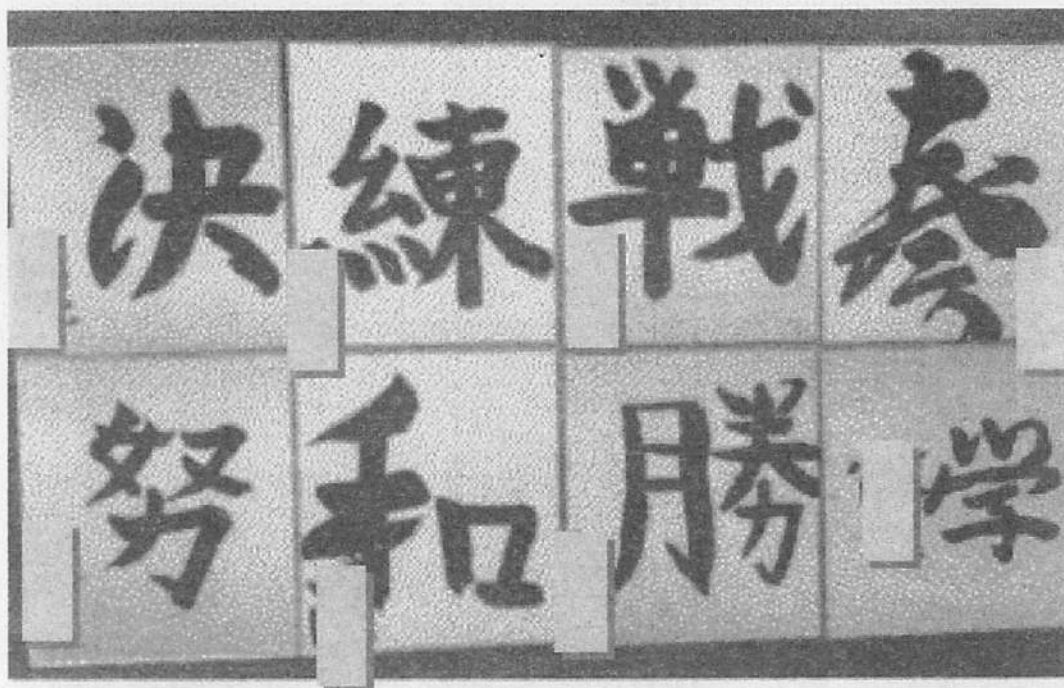
○道徳の活動のまとめ（ペン書き）



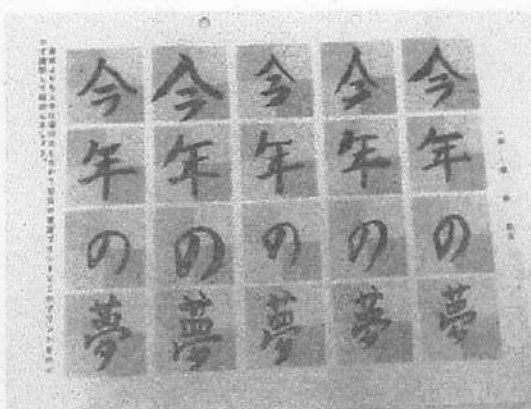
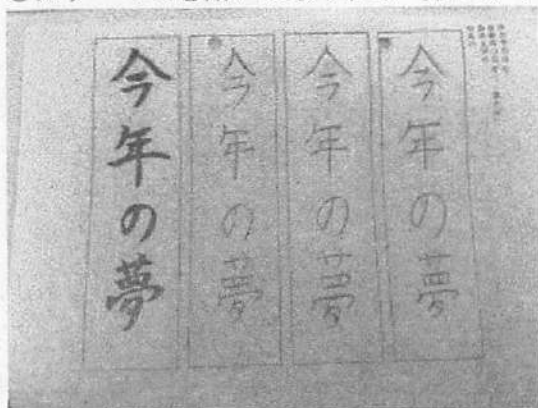
○学校名を行書で書く（硬筆）



○新年の目標を漢字一文字で表現（毛筆 書体自由）



○カラーマスを用いた取り組み（右上がりを意識して書けるようになった生徒）



○カラーマスを用いた取り組み（文字の大きさが整った生徒）

